

社会福祉学部教員の委員会活動 (委員会活動年度報告書)

教務委員会

住友 雄資

1. 教務委員会の活動

教務委員会の役割は以下のものである。

- (1) 教育課程の構成，学科目の種類，編成及び履修方法にかかる調整，企画立案，運営及び実施に関すること。
- (2) 学生の転入学，編入学，転学部，転学科，休学，復学，退学に関すること
- (3) 試験及び卒業に関すること
- (4) 他大学との単位互換に関すること
- (5) その他社会福祉学部の教育課程に関すること

2. 2006年度の経過報告

カリキュラム改訂および時間割編成

専門教育科目の一部改訂を行い、「社会福祉ふれあい実習」，「精神保健福祉ふれあい実習」を導入した。これらは「社会福祉現場実習Ⅰ」「精神保健福祉援助実習」履修の前提となる科目で，本格的に始まる実習事前学習の前に，学生自らが現場に赴き，利用者とふれあってくるという性格のものである。ただし初年度ということもあり，受け入れていただく現場からのとまどいの声の一部聞かれた。科目の目的が達成できるよう現場との関係を調整するなどの改善が必要であることが判明した。

時間割編成が年々難しくなっている。これは3年次編入学生と留年生に対応することから生じることである。特に卒業を間近に控えている編入生・留年生への配慮である。一人一人履修科目が異なること，必修科目履修，ほぼ全員が取得する社会福祉士受験資格の指定科目履修，学生の希望による精神保健福祉士受験資格や教職資格関係の科目履修ということがあり，それらに対する種々の配慮である。編入生には「3年間かかることもあるよ」と入試面接時に伝えてあり，そこで了解を得ているが，できるものなら2年間で卒業かつ資格取得したいというのは学生の本音である。これらに対応することで，時間割編成が年々困難になってきている。

卒業研究論文に関する三発表会の実施

今年度も卒業研究論文の完成に向け，4回生対象に「卒論構想発表会」，「卒論中間発表会」，「卒業研究論文発表会」を開催した。特に「中間発表会」では初めてポスター発表方式を取り入れた。一人の持ち時間が50分あったことで立ちっぱなしで足が痛くなったという意見は出されたが，教員からの指導だけにとどまらず，3回生などからの質問などにより学生間でのやりとりがあちこちで生まれ，ただ聞くだけでなく参加したという気持ちだったとの感想を得ている。反省点は来年度に反映させていく予定である。

なお卒論の内容についていえば，その研究水準が年々高くなってきていることは評価に値する。カットアンドペーストで卒論を執筆するのではなく，多くの4回生が現場に出て量的・質的調査をおこない，そこから得たデータを分析するというスタイルが確立しつつある。喜ばしい傾向である。当然のことながら，このことは「人を対象とする研究」ということになるので，これらの人に対する倫理的配慮が不可欠となってくる。次年度からは

これに対応するための研究倫理審査を導入することとしたい。

3. 今後の課題

専門教育科目については、カリキュラム見直しと時間割編成見直しが懸案事項になっている。現時点で今後の検討に値する点を以下に記す。

①教職（福祉科）の廃止

- このことで、2年次前期の水曜日と後期の木曜日午前に専門科目が開講できる。
- このしわ寄せが2年次後期と3年次前後期に専門教育科目が集中している。
- 社会福祉土の実習との絡みで、終えておかなくてはならない科目（基礎的な専門科目、分野領域科目、演習系科目）があり、それらを時間割に組み込みにくい。

②三年次編入学制度を廃止するか、もしくは二年次編入学制度に切り替えること

- 廃止すれば、編入生対応の時間割編成の困難性はなくなる。
- 2年次編入にすれば、①とあいまって時間割編成がゆるやかになる。編入生に「福祉研究法Ⅰ・Ⅱ」などを履修させることにより、卒論執筆に好影響を与える可能性がある。
- 編入生が2年間で卒業しなくてもよいので、詰め込みでない履修が可能となる。
- デメリットとしては、修業年限が1年間延びることで授業料の負担が増える。

これらを実行することで、時間割編成がスムーズになると推察される。

学部教育を充実させ、かつスムーズに進めていくためには、教務担当教員と学生課、池事務室との連携が欠かせない。2キャンパス制をとっていることもあるため物理的に難しい側面があるが、今後のカリキュラムの見直しを見据え、教育目標や教育課題の共通化を行いながら、連携の方策について深めていきたい。

入試委員会

長澤 紀美子

○ 平成 19 年度入試の概況

2006 年（平成 19 年度）入試に関わる社会福祉学部の体制は、学部入試実施委員（長澤、西梅）、学部入試委員（4 月～8 月：長澤、それ以降学部長）、センター試験部会委員（西梅）が担当した。

平成 19 年度社会福祉学部の入学状況は以下の表のとおりである。

区分		募集人員 A	志願者数 B	受験者数 C	合格者数 D	入学者数	合格倍率 C/D	志願倍率 B/A
推薦	一般	9	13	13	9	9	1.4	1.4
	専門	1	1	1	1	1	1.0	1.0
個別	前期	17	86	81	21	19	3.9	5.1
	後期	3	97	49	6	5	8.2	32.3
私費外国人留学生		若干人	0	0	0	0	—	—
3年次編入		3	7	7	3	3	2.3	2.3
合計		33	204	151	40	37	3.8	2.3

平成 19 年度入試に関する特記すべき事項として、以下の点が挙げられる。

①前期入試出願書類の変更（「課題図書感想文」）

一般入試前期日程においては、従来から課題図書を提示し、その内容に関する面接をおこなっていたが、今年度から「課題図書感想文」の出願時の提出を義務づけた。

②専門推薦に県外から志願者

昨年度に引き続き、専門推薦に県外高校から志願者（1 名）があり、合格した。

③志願者数の減少

上記表のとおり、全ての入試日程において、昨年度よりも志願者数が減少した。

本学部は、一般入試後期日程において、一昨年度に続き昨年度も国公立大学で全国 1 位の高い志願倍率（平成 18 年度志願倍率 52.7、合格倍率 19.2）を達成したが、今年度は全国 6 位であった。前期日程についても、平成 18 年度志願倍率 8.1、合格倍率 5.7 に比べ、志願者減となった。ただし、全国に 15 ある公立大学社会福祉系学部の中では、前期の志願倍率は 2 位（2 校）、後期は 1 位である。尚、「課題図書感想文」の提出が前期の倍率の変化に影響を与えたかどうかは定かではない。

④学部生を対象としたアンケートを実施

学部入試委員会で、学部 1・2 回生を対象に志望動機を中心としたアンケートを実施した。本学を受験した動機については、社会福祉関連の資格取得や就職を希望するため、公立大学で私立より学費が安い、センター試験の結果を考慮して、等の理由が多く挙げられた。

○ 活動の評価および課題

近い将来予定されている学部再編とそれに伴う定員増を鑑み、四国・中国・関西地方圏等の高校生に対し、積極的に学部広報をおこない、本学部のアドミッション・ポリシーに見合う志願者を継続的に集めることが今後の課題である。

学生委員会

鈴木 孝典

学生委員会は、学生の福利厚生の上昇、自主的活動の支援、学生生活に必要な情報提供を目的に活動を展開している。今年度の活動内容は、以下のとおりである。

【 活動内容 】

I. 相談活動

保健師、心理カウンセラー、医師による相談窓口を定期的に開設した。相談の利用形態、利用時間、申し込み方法については、年度当初のオリエンテーションにて説明した。また、定期の相談日は、掲示板などを利用して学生に周知した。

併せて、今年度より定期の相談日が増設され、新たに学生相談専用のスペースを社会福祉学部棟 1 階の 110 教室に設置した。

II. 経済的援助

年度当初のオリエンテーションにて、日本学生支援機構の奨学金の申請方法を説明したほか、学生からの個別相談に応じ、適宜、授業料の免除や各種奨学金の申請などについて情報提供を行った。

III. キャンパスルール

駐車場および駐輪場の使用区域、自動車の構内走行、大学施設の使用などにかかわる規則を守らない学生が若干、目立つようになってきたため、新年度オリエンテーションにおいて資料を配布し、再度遵守することを促した。

IV. 情報提供

社会福祉学部棟の掲示板などを活用し、学生生活にかかわる情報を随時、提供した。また、4 月には、サークル紹介専用の掲示板を特設し、新入生へのサークル情報の伝達の機会を在學生に提供した。

V. 健康の維持、向上

年度当初に健康診断を実施した。また、適宜、学生からの個別相談に応じ、保健室や学生相談窓口などを紹介した。併せて、保健室と随時、連携を図った。

【 今後の課題 】

○ メンタルヘルスの問題を含む健康相談への対応について

- ・メンタルヘルスの問題を含む健康相談が増加傾向にある。しかし、カウンセラーや精神科医、婦人科医など専門家による相談窓口は、開設日が限られており、学生のニーズに充分対応していない現状がある。また、学生からの健康相談が教職員に持ち寄られるケースも少なからずあることから、保健医療専門職員の常駐など抜本的な改善が望まれる。

就職委員会

西内 章

1. 全学の取り組み

学科別の内定状況やワクワク WORK!!からの情報交換をふまえ、就職支援を行った。また、18年度より池キャンパスにも就職相談コーナー「ワクワク WORK!!」が設置された。

2. 学部の取り組み

今年度も就職セミナーを実施した。また社会福祉学部求人票については、関係機関・施設へ送付するとともに、様式をホームページに掲載した。また以下のように、学部就職セミナーを実施した。

社会福祉学部就職セミナーの開催

第1回就職セミナー

日時 5月10日(水) 18:15~19:30

場所 大講義室

講師 ワクワク WORK!!池キャンパス 松木
卒業生 前田紗江(第1期生)
田中佐和(第1期生)
横畠綾子(第4期生)

第2回就職セミナー

日時 6月27日(火) 17:40~19:30

場所 大講義室

講師 きのごグループ 眞鍋 民康
卒業生 前田紗江(第1期生)
田中佐和(第1期生)
横畠綾子(第4期生)

3. 学年担当として

国内研修のため、4月~7月は学年担当を川崎育郎教授に、また就職委員長を吉野由美子准教授に代行をお願いした。就職支援については、今年度より設置されたワクワク WORK!!の担当者及び池事務室と協力しながら進めた。具体的には、学生への進路相談、社会福祉学部棟2階廊下の掲示板に求人票を掲示するなどである。

4. 活動の評価

今年度は、2007年5月現在、31名の卒業生のうち、大学院へ進学者1名、就職を希望しなかった者1名を除く、残りの29名が就職(臨時採用者を含む)した。昨年度に比べると若干ではあるが、早めに内定をもらった学生が多かった。これは、今年から池キャンパスに設置されたワクワク WORK!!の成果であると言ってよい。大学内で求人情報の共有化できたことに加え、池事務室にも協力してもらい模擬面接、履歴書の添削、個別相談など、きめ細かい就職支援ができた。

委員会活動年度報告書

5. 今後の課題

学生の就職希望分野や地域特性によって、就職活動が異なるため、より細かな支援体制を築くことが望ましい。特に県外就職希望者に対しては、大学にくる求人だけでは情報が少ないため、早くからその学生とともに情報収集に努めなければならない。



社会福祉学部第1回就職セミナー（2006年5月10日）大講義室

国際交流委員会

長澤 紀美子

○ 活動報告

1. アメリカ・エルムズ大学

- 1) 長期受入：エルムズ大学男子学生1名が本学で研修：5月24日～8月21日
- 2) 長期留学（派遣）：本学文化学部学生1名が長期研修：9月～3月
- 3) 短期留学（派遣）：本学学生10名（生活科学部健康栄養学科3名、文化学部4名、看護学部3名）が短期研修：2007年2月26日～3月15日 引率：生活科学部健康栄養学科佐藤厚教授
※今年度は、社会福祉学部の参加なし。
- 4) 海外研修報告会（5/11,16）：昨年度短期研修生による報告

2. モンゴル・ウランバートル第23番外国語教育特別学校

- 1) 短期研修生受入（前期）4名：5月17日～7月21日
 - 2) 短期研修生受入（後期）4名：9月28日～11月30日
- ※前期・後期とも週1日を池講義日とし、社会福祉学部・看護学部授業に参加した。
※昨年度モンゴルを訪問（短期研修）した10名の学生（全員社会福祉学部）が中心となり、歓迎焼肉パーティの企画や、バスハイクやお別れ会への参加、三里まつりへの支援等をおこなった。また、これらの学生が海外研修報告会（5/16）でモンゴルの研修について報告した。

3. 中国・台湾との交流協定

新たに、本学と北京聯合大学旅游学院（中国 北京市）、文藻外語学院（台湾 高雄市）との交流を締結した。次年度より、本格的な交流（受入と派遣）が開始される。

4. その他

- 1) スウェーデン・ヨーテポリ大学留学生の聴講受入
日本での受入は高知大学であるが、本学で授業を聴講（10月より1年間）。
- 2) 国際交流クラブ活動の活性化
- 3) ジャパリアン韓国学生交流の支援

○ 活動の評価および課題

高西国際交流委員長と事務局谷岡さんのご尽力により、中国・台湾の高等教育機関との交流協定の締結や、宿舎設備等長期受入学生への環境整備がなされた。大学としては小規模ではあるものの、アジア・北米との交流に一定の実績をもつようになった。また、国際交流クラブという、国際交流に関心をもつ学生が積極的に留学生と関わる活動も定着してきた。

課題としては、次年度のエルムズ等の留学生を受け入れるホームステイ先の確保と留学生と受入家庭との調整（文化の違いによるトラブル等の防止等）がある。長期的には、予算の制約の中での交流先の拡大と交流の継続が挙げられる。

また、社会福祉学部としては、昨年度モンゴル短期研修をおこなったため、その際研修

委員会活動年度報告書

した学生がモンゴルとの交流に積極的に参加した。さらに学部教員の厚意により、講義の中でモンゴルの報告を取り上げたり、留学生との交流の機会を作ることができた。モンゴル研修も単年度に終わらず相互交流を継続すること、他の学生の国際的な福祉への関心を委員会の活動にどのように繋げていくかが課題である。

地域創成センター

川崎 育郎

全学的活動

地域推進会議の委員として委員会に出席しニュースレターの編集などや高知女子大学と地域との連携案件について審議した。

社会福祉学部での活動

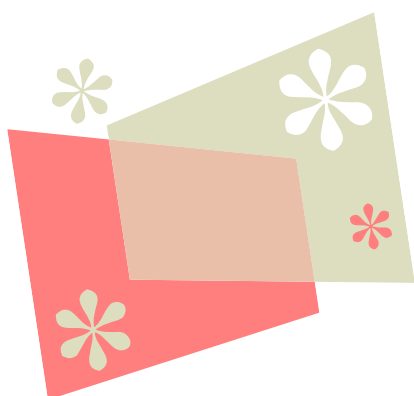
高校生のための公開講座

2006年7月30日(日)と7月31日(月)の2日間高校生のための公開講座を開催した。本講座は、高知県の高校生を対象に、社会福祉への理解を深めてもらうと同時に四国で唯一の公立大学で社会福祉を学ぶことができる本学部を認識してもらう機会として毎年開いている。本年は、高知県下の高等学校と県外からの応募もあり30名の申し込みがあった。5人の講師による幅広い内容の講義と最終時間にはサロンが開かれた。サロンでは教員と参加高校生との温もりのある話し合いがもたれた。(別紙資料参照)

社会福祉学部リカレント講座

本講座は、1998年4月の社会福祉学部新設とともに福祉の現場で活躍している社会福祉従事者を対象として開設された。現在まで数多くの講座が開設されてきた。本年度も別紙資料にあるように、本学教員等によってさまざまな講座が、10月から2月までの期間、開講された。高知県下から様々な領域の社会福祉関係の専門家の応募があり、受講者の延べ人数は597名であり、福祉関係者の研修ニーズが如何に高いかを示しているように思われる。(別紙資料参照)

高校生の ための 公開講座



**Welcome to
高知女子大学
社会福祉学部**

高知女子大学は、社会福祉領域のプロフェッショナルを養成する、四国内で唯一の公立大学です(社会福祉士国家試験合格率69.0%(全国平均28%)、精神保健福祉士合格率89.5%(全国平均61.8%)、就職率97.4%、2005年度)。

未来のプロフェッショナルを育てる高知女子大学の雰囲気、この夏、体験してみませんか?(※高知県内の高校生対象)



2006年7月30日(日)・31日(月) 開講!

高知女子大学社会福祉学部 ●池キャンパス●

ホームページ <http://www.kochi-wu.ac.jp/~fukushi/>

ごあいさつ

高知女子大学社会福祉学部
学 部 長

前山 智 Satoshi MAEYAMA

四国で唯一の公立大学で社会福祉を学べる場としての本学の存在を認識していただくとともに、社会福祉に対する理解を深めていただくために、平成 12 年度より、高知県下の高校生を対象として、「高校生のための公開講座」を開講しております。今年度もプログラムが準備できましたので、受講生を募集いたします。

高校生の皆様のご参加を心からお待ち申し上げます。

福祉の世界を覗いてみませんか？

高知女子大学社会福祉学部
高校生のための公開講座コーディネーター

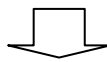
玉里恵美子 Emiko TAMAZATO

今年度も、高校生の皆さんが社会福祉に関心を持っていただけるように、6つの授業をご用意しました。大学で普段行われているような講義を聴いたり、先生方に直接質問したり、盛りだくさんの内容です。

夏休みのひととき、大学の雰囲気やいろいろな高校のみんなと出会う絶好の機会です。日ごろから社会福祉に関心を持っている人だけではなく、たくさんの人に受講していただきたいと思います。

高校生公開講座の受講申込方法

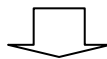
1. 高校生公開講座受講申込書（別紙）に必要事項をご記入ください（黒のボールペンなどを用いて、楷書でハッキリとお書きください）。なお、原則として2日間連続して受講してください。



2. 高校の先生を通じて、FAXか郵送でお申し込みください。参加費は無料です。お申込締切は、7月14日（金）必着。

【お申込み先】〒781-0111 高知市池 2751-1 FAX：088-847-8672

高知女子大学社会福祉学部・高校生公開講座係



3. 使用教室の関係で、参加定員は30名とさせていただきます。受講希望者多数の場合は、学校・学年などを参考に人数を調整させていただくことがありますので、あらかじめご容赦ください（参加定員等の都合で参加いただけない場合、7月20日（木）までにお申込者様宛にご連絡いたします。）。

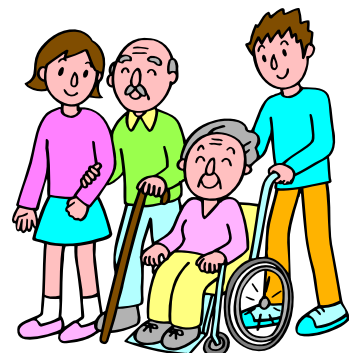
第7回高校生のための公開講座
今年度のLINE-UP

	7月30日(日)	7月31日(月)
1時限	【池キャンパスへのアクセス】 バス：大人片道 330 円 (土佐電ドリームサービス) はりまや橋 高知女子大学 ① 9:15 → 9:35 ② 9:50 → 10:10 (30日(日)は10:08 高知医療センター止)	
2時限 10:20~11:50	開講式	【講座④】 さぐること・ささえること・つくること～ 「社会福祉の世界」にふれる～ (鈴木 孝典講師)
	【講座①】 高知女子大学の社会福祉学部を知っていますか？ (前山 智教授)	
昼休み		
3時限 12:35~14:05	【講座②】 対人支援、はじめの一步 (西梅 幸治講師)	【講座⑤】 北欧の福祉事情 ～スウェーデン・デンマークの福祉とは～ (田中きよむ教授)
4時限 14:15~15:45	【講座③】 途上国の障害者 ～どんな支援が必要か～ (太田こずえ助手)	【サロン】 みんなの疑問に答えて～入試・実習・資格取得のことなど(複数教員) (司会 吉野由美子助教授)
		閉講式
5時限	(学部内自由見学)	
	【池キャンパスからのアクセス】 バス：大人片道 330 円 (土佐電ドリームサービス) 高知女子大学 はりまや橋 ① 15:58 → 16:21 (30日(日)は16:00 高知医療センター発) ② 17:48 → 18:12	

※スケジュールが若干変更になる可能性があります。予めご承知おきください。

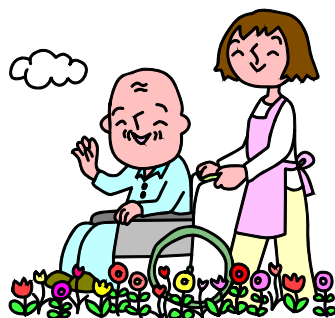
<ご案内>

- ・30日(日)の昼食は持参もしくは大学隣の高知医療センター内のコンビニをご利用ください。31日(月)は学内の生協食堂・売店をご利用いただけます。
- ・8/1(月)は高知女子大学オープンキャンパスが開催されます(事前申込不要)。こちらにもぜひお出かけ下さい。



■各講座を担当する本学講師陣（講義順）

- 前山 智（まえやま・さとし）社会福祉学部教授（学部長）。専門は情報教育・X線分光。
- 西梅 幸治（にしうめ・こうじ）同講師。専門は社会福祉援助技術論、地域福祉論。社会福祉士。
- 太田 こずえ（おおた・こずえ）同助手。専門は障害者福祉論、NPO論。社会福祉士。
- 鈴木 孝典（すずき・たかのり）同講師。専門は精神保健福祉論。社会福祉士、精神保健福祉士。
- 田中 きよむ（たなか・きよむ）同教授。専門は福祉行財政論。
- 吉野 由美子（よしの・ゆみこ）同助教授。専門は障害者福祉・視覚障害リハビリテーション。
- （他）



お申し込みお待ちしております

高知女子大学社会福祉学部

●池キャンパス●

〒781-0111 高知県高知市池 2751-1

TEL：088-847-8700（代表）

FAX：088-847-8672（学部専用）

ホームページ <http://www.kochi-wu.ac.jp/~fukushi/>

第7回高校生のための公開講座 受講申込書

2006年 月 日

(フリガナ) 高等学校の 担当教員名				
(フリガナ) 高等学校名				
高等学校の 所在地 等	〒			
	TEL		FAX	
受講希望者全員の氏名（フリガナ）・学年・利用予定交通手段				
No	お 名 前		学 年	利用予定 交通手段
	(漢 字)	(フリガナ)		
1				
2				
3				
4				
特記事項				

※本学部がこの申込書によって知り得た個人情報は、「第7回高校生のための公開講座」実施の目的以外には利用しません。

申込締切（必着）：**2006年7月14日(金)**

大学使用欄			
-------	--	--	--

高知女子大学社会福祉学部

FAX（学部専用）：088-847-8672

知の現場（フィールド）への招待

リカレント教育講座

社会福祉の講義が
無料で学べる！

2006年10月～12月 開講！

高知女子大学社会福祉学部

Kochi Women's University

ごあいさつ

高知女子大学社会福祉学部
学部長

前山 智 Satoshi MAEYAMA

日頃は、本学の社会福祉教育にご理解・ご協力を賜りありがとうございます。本学部では、高知県下の保健・医療・福祉従事者を対象とした再教育・再研修に寄与するために、平成 10 年度より「高知女子大学社会福祉学部リカレント教育講座」を開講しております。今年度も開講できる運びとなりましたので、受講生を募集いたします。

お気軽にご参加頂き、日頃の実践に多少なりともお役立て頂ければ幸いです。

池キャンパスで学びませんか

高知女子大学社会福祉学部
リカレント教育講座コーディネーター

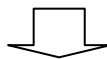
玉里 恵美子 Emiko TAMAZATO

今年度も、保健・医療・福祉等の現場で活躍されている専門職の方のお役に立てるよう12の企画をご用意致しました。特に今回はフレッシュな教員メンバーが講座を開講しておりますので、過去に履修いただいた皆様もリピーターとしてご参加ください。複数の講座の併修も可能ですし、12月には特別講座も開講いたします。

たくさんの皆様のご参加を心からお待ち申し上げます。

リカレント教育講座の受講申込方法

リカレント教育講座申込書（別紙）に必要事項をご記入ください
（黒のボールペンなどを用いて、楷書でハッキリとお書きください）



申込書を FAX または郵送でお申し込みください
（受講希望講座選択の際には、受講条件にご注意ください）

お申込締切は、9月29日（金）必着

【お申込み先】

<郵送> 〒781-0111 高知市池 2751-1
高知女子大学社会福祉学部・リカレント教育講座係
<FAX> 088-847-8672



当日、講座の開催会場へ直接お越しください。

平成 18 年度リカレント教育講座

今年度の LINE-UP

講座	テーマ (担当講師)	開講日時 (場所)	受講対象者 ・ 定員
A	地域福祉（活動）計画と住民主体のまちづくり (田中 きよむ 教授) 高知県内の地域福祉計画や活動計画の取り組み状況や個々の地域福祉活動をスライドで紹介しながら、住民主体の町づくりの方向性を考える。	10/7 (土) 18:00~20:00 (教室 101)	社協職員、行政職員、一般市民、NPO・ボランティア団体 ・ 3~30名
B	ソーシャルワーク・アセスメントのスキルアップ ー生活の視点からー (西内 章 講師・西梅 幸治 講師) 本講座は、エコシステム視座に立脚したソーシャルワーク・アセスメントを紹介する。具体的には、ソーシャルワーク支援の一局面であるアセスメント過程において重要となる、「生活」をとらえる視点について、事例などを用いながら検討していく。また、受講者が日々行っているアセスメントに関する意見交換も取り入れながら相互のスキルアップを図りたい。なお、本講座は、演習形式で行う。	10/21 (土) 13:30~15:30 (教室 101)	社会福祉に関する施設および機関、病院に勤務している方、およびソーシャルワーク・アセスメントに関心がある方 ・ 5~20名
C	障害のある幼児の理解と発達援助 (川崎 育郎 教授) 障害のある幼児について基礎的な理解を深めます。情緒障害、自閉症、ADHD、知的障害や言語遅滞などの障害について基本的なことを学習します。その後、保育園や幼稚園や家庭における発達援助について考えます。障害のある子どもの支援については、さまざまな悩みや迷いなど困難なことが生じてくるだろうと思います。そのようなことについて事例研究や受講者間の意見交流を通して考えます。	《全3回》 ①10/24(火) ②11/7(火) ③11/28(火) 19:30~21:00 (教室 101)	保育士、幼稚園教諭、その他の児童福祉従事者・幼児教育従事者など ・ 5~40名
備考	1) 複数の講座を併修できます。申込者がいない場合には当該講座は開講しません。 2) いずれの講座も池キャンパス社会福祉学部棟で開催。		

講座	テーマ (担当講師)	開講日時 (時間)	受講対象者 ・定員
D	<p style="text-align: center;">地域福祉と移動サービス (田中 きよむ 教授)</p> <p>高齢化が進む高知県において大きな生活課題となっている移動サービスの現状と課題について、行政や NPO へのアンケート調査、道路運送法の改正動向等をふまえて考察する。</p>	<p>10/28 (土) 18:00~20:00 (教室 101)</p>	<p>市町村職員、県職員、NPO 団体、社協職員、一般市民 . 3~30 名</p>
E	<p style="text-align: center;">小規模作業所のこれからを考える (太田 こずえ 助手)</p> <p>障害者自立支援法の成立以降、障害者福祉サービスのあり方が大きく変容しています。法定内施設よりも比較的、自由度が高い無認可の小規模作業所も例外ではありません。 本講座では、小規模社会福祉法人化や NPO 法人化に取り組んでいる札幌市の小規模作業所の事例を紹介したうえで、現在、高知県内の作業所が抱えている課題を参加者からあげてもらい、今後の小規模作業所のあり方について参加者全員で考えます。</p>	<p>10/31 (火) 18:30~20:30 (教室 101)</p>	<p>小規模作業所および小規模授産施設の関係者(職員、利用者など) . 1~10 名</p>
F	<p style="text-align: center;">介護保険・障害者福祉制度の改革動向と課題 (田中 きよむ 教授)</p> <p>改正介護保険法と障害者自立支援法をめぐる改革動向の内容と特徴を分析し、今後の課題を明らかにする。</p>	<p>11/4 (土) 18:00~20:00 (教室 101)</p>	<p>高齢者介護や障害者福祉に関心をもつ人なら誰でも . 3~30 名</p>
G	<p style="text-align: center;">介護サービス情報の公開と福祉サービスの第三者評価 (長澤 紀美子 助教授)</p> <p>平成18年度から、特養等の介護保険事業所に義務づけられた「介護サービス情報の公開」、福祉サービス事業者に受審が推奨されている「福祉サービス第三者評価事業」及び認知症高齢者グループホームの外部評価の取り組みなど、評価に係わる最新動向を解説し、事業者側からみた課題等を議論したい。</p>	<p>11/11 (土) 13:30~15:30 (教室 101)</p>	<p>社会福祉施設および介護保険事業所等の職員 . 3~30 名</p>

講座	テーマ (担当講師)	開講日時 (時間)	受講対象者 ・定員
H	<p align="center">「リスク」との上手なつき合いかた － リスクアナリシスのすすめ － (鈴木 孝典 講師)</p> <p>介護保険制度の成立以降、保健福祉サービスの現場では、「安全」の確立に向けた取り組みが浸透しつつあります。しかし、その取り組みの多くが、「新たな危険」を生み出していることに皆さんはお気づきでしょうか？</p> <p>この講座では、保健福祉サービスにおける「リスク」の構造と特性について基礎的な理解を図った上で、「リスク」と上手につき合うための術として、「リスクアナリシス」という手法について学ぶことを目的とします。</p>	<p align="center">《全2回》</p> <p>①11/21 (火) ②受講者と相談の上で決定 18:30～20:30 (教室 101)</p>	<p>つぎの2つの条件を満たす方 ①保健福祉にかかわるサービスに従事する方(職種は問わず)②リスクマネジメントに関心のある方 ・ 4～25名</p>
I	<p align="center">田内千鶴子さんを知っていますか？ (玉里 恵美子 助教授)</p> <p>第二次世界大戦を挟んで韓国孤児 3,000 人を育てた田内千鶴子さん。高知市若松町出身の田内さんは、韓国木浦の共生園の母(オモニ)となりました。本講座では、田内さんの生涯を美しい映像で綴った映画『愛の黙示録』を鑑賞した後、田内さんゆかりの人々からの聞き取り調査をもとに、知られざる田内千鶴子像に迫ります。</p>	<p>11/25 (土) 13:30～15:30 (大講義室)</p>	<p>一般 ・ 3～30名</p>
J	<p align="center">年金・医療制度改革と今後のゆくえ (田中 きよむ 教授)</p> <p>年金・医療制度をめぐる改革動向の内容と特徴を解説しつつ、今後の課題と方向を探る。</p>	<p>11/25 (土) 18:00～20:00 (教室 101)</p>	<p>年金制度や医療制度に関心をもつ人なら誰でも ・ 3～30名</p>
備考	<p>1) 複数の講座を併修できます。申込者がいない場合には当該講座は開講しません。 2) いずれの講座も池キャンパス社会福祉学部棟で開催。</p>		

□本学部卒業生対象講座のご案内

講座	テーマ (担当講師)	開講日時 (場所)	受講対象者 ・定員
K	<p>社会福祉研究法入門 (住友 雄資教授・宮上多加子助教授)</p> <p>社会福祉現場で出会うさまざまな問題や事象をどのように取り上げ、研究につなげていくか、その方法を学ぶ。 担当者の専門領域により、2つのコースがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 精神保健福祉・ソーシャルワークコース (担当：住友) ● 高齢者保健・介護コース (担当：宮上) 	<p>≪全8回≫ ①10/14 (土) 19:00~20:30 (初回のみ) 二回目以降は、全体で調整の上、受講生の都合を考慮して開講</p>	<p>本学部 卒業生 ・ 1~5名</p>
備考	<p>1) 複数の講座を併修できます。申込者がいない場合には当該講座は開講しません。 2) いずれの講座も池キャンパス社会福祉学部棟で開催。</p>		

■各講座を担当する本学講師陣の紹介

- 川崎 育郎 (かわさき・いくろう) 社会福祉学部教授。専門は臨床心理学、障害児教育。
- 住友 雄資 (すみとも・ゆうじ) 同教授。専門はソーシャルワーク、精神保健福祉。
- 田中 きよむ (たなか・きよむ) 同教授。専門は福祉財政論。
- 宮上 多加子 (みやうえ・たかこ) 同助教授。専門は介護福祉学。看護師。
- 長澤 紀美子 (ながさわ・きみこ) 同助教授。専門は国際福祉、社会福祉政策。
- 玉里 恵美子 (たまざと・えみこ) 同助教授。専門は農村社会学、家族社会学。
- 西内 章 (にしうち・あきら) 同講師。専門は社会福祉援助技術。社会福祉士。
- 鈴木 孝典 (すずき・たかのり) 同講師。専門は精神保健福祉論。社会福祉士、精神保健福祉士。
- 西梅 幸治 (にしうめ・こうじ) 同講師。専門は社会福祉援助技術論、地域福祉論。社会福祉士。
- 太田 こずえ (おおた・こずえ) 同助手。専門は障害者福祉論、NPO論。社会福祉士。

特別講座

ユニットケアはこれからです — ユニットケアの現状と課題 —

<講師> 武田 和典 氏

きのこ老人保健施設（岡山県笠岡市）副施設長
特養・老健・医療施設ユニットケア研究会 代表



<事例発表> 藤原 由香 氏（本学部第3期卒業生）

総合福祉施設ヘリオス
特別養護老人ホーム森の里高知（高知市）生活相談員

<司会> 玉里 恵美子 助教授（高知女子大学社会福祉学部）

平成18年の介護保険改正では「地域密着型サービス」が謳われ、介護保険事業者であっても地域との連携や協働が求められています。

ユニットケアを広げるために全国を行脚する武田和典さんの一貫した主張は「ユニットケアは入口で、出口は地域」。今年度の特別講座では、武田和典さんをお迎えして、ユニットケアとは何か、その現状と課題、そして今後についてお話いただきます。

また、本学部卒業生の藤原由香さんが高知県内の実践事例を紹介した後、武田和典さんから小規模多機能ホーム、特別養護老人ホーム、老人保健施設、病院などの施設が、どのように地域密着型サービスを展開していくことができるのか、その可能性をコメントしていただきます。ご期待下さい。

日時：2006年12月9日（土）14:00～16:00

場所：高知女子大学社会福祉学部（池キャンパス）大講義室

定員：一般・200名

（事前お申込以外の当日参加も可能です。お誘い合わせの上ご来場下さい。参加無料です）

<講師紹介>

武田 和典（ただだ・かずのり）：東北福祉大学卒業。新聞販売所店員、元知的障害者更生施設宇津峰十字の里副施設長、元特別養護老人ホームシオンの園施設長、東北福祉大学兼任講師、元福島県立総合衛生学院保健学科非常勤講師。

（主催）高知女子大学社会福祉学部 〒781-0111 高知県高知市池 2751-1

TEL：088-847-8700（代表） FAX:088-847-8672（学部専用）

（後援）高知県社会福祉協議会



■ JR 高知駅から／車で約 20 分

■ はりまや橋から／バスで約 20 分

高知女子大学社会福祉学部

Kochi Women's University

● 池キャンパス ●

〒781-0111 高知県高知市池 2751-1

TEL : 088-847-8700 (代表) FAX:088-847-8672 (学部専用)

<http://www.kochi-wu.ac.jp/~fukushi/>

平成 18 年度リカレント教育講座受講申込書

2006年 月 日

(フリガナ)			
氏名			
連絡先 <input type="checkbox"/> 勤務先 <input type="checkbox"/> ご自宅	〒		
	TEL		FAX
	E-MAIL		
勤務先の名称			
職種			
受講を希望する講座 ※複数選択(併修)可	<p>A ・ B ・ C ・ D ・ E</p> <p>F ・ G ・ H ・ I ・ J</p> <p>K (本学部卒業生のみ選択可) ・ 特別講座</p> <p>注意: 申込者がいない場合には当該講座は開講しません。</p>		
本学部卒業生の場合記入	高知女子大学社会福祉学部 第 期生		
特記事項			
これまでの受講経験 (どちらかに○)	有 ・ 無 (今回は初めて)		

※ この申込書によって知り得た個人情報は、「平成 18 年度リカレント教育講座」実施の目的以外には利用しません。

申込締切： 2006年9月29日(金)

申込書が足りない場合はコピーしてお使いください

平成 18 年度リカレント教育講座受講申込書
(裏面に必要事項をご記入し、FAX か郵送でお申込下さい)

【お申込み先】

<郵送の場合>

〒781-0111 高知市池 2751-1

高知女子大学社会福祉学部・リカレント教育講座係

<FAX の場合>

FAX 番号 : 088-847-8672

【お申込締切】

2006年9月29日(金) 必着

体験、そして実感。

ひと 人間っておもしろい！

学生・教員に、なんでもきいてみてください！●●●●●●●●●●●●●●●●

高知女子大学社会福祉学部

OPEN CAMPUS 2006

午前

全学科共通<<特別企画>>

12:45-13:50

社会福祉学部がまるごとわかる！

学部全体説明会

14:15-14:45

「一日社会福祉学部生」を体験！

体験授業

**「演習形式で学ぶ
介護福祉」**

宮上 多加子 助教授

13:50-15:40

4月入学！一回生の

先輩による相談室

①11:00-11:45

②14:00-15:40

入試のことがよくわかる！

(入試相談コーナー)

教員による相談室

(随時)

学生撮影の秘蔵ビデオを一挙公開！

学部紹介ビデオ上映会

日時：2006年8月1日(火) 10:00~16:00

場所：高知女子大学池キャンパス (まずは社会福祉学部棟1F受付へ)






Welcome

'06 社会福祉学部
オープンキャンパス

2006年8月1日

社会福祉棟

社会福祉学部のすべてがわかる!

	共用棟2階	玄関	1-4階	101講義室	102講義室	202講義室
10時	学生シンポジウム 「女子大ヲ斬ルー 授業・クラブ・イ ントー」 (全学共通) [10:00-11:15]	受付	自由 見学	学生撮影の 学部紹介ビデオを 上映しています	 フリードリンク コーナー	先生にも オススメ
11時						教員による 相談室 [11:00-11:45]
12時	昼休み			 11:45~12:45 食堂で学生アトラクション		
13時	学部全体 説明会 [12:45-13:50]			学生撮影の 学部紹介ビデオを 上映しています (随時)	大好評	先生にも オススメ
14時					体験授業 [14:15~14:45]	先輩による 相談室 [13:50-15:40]
15時						
16時						

何でも学生、教員に聞いてくださいね。親切にお答えします。
 永国寺キャンパスと池キャンパスの間をシャトルバスが運行します。

14:15~14:45 体験授業

「演習形式で学ぶ介護福祉」

宮上 多加子 助教授

体験授業

実習委員会

西内 章

実習に関する報告は、『2006年度 社会福祉実習報告書 (CANVAS)』(2006年2月刊行)に記している。本学では実習報告書のタイトルは、編集委員を中心にして学生が命名している。2006年度のタイトルは「CANVAS」である。

編集後記によれば、①実習前の自分たちを表現し文字通り「真っ白な」キャンバスととらえている。実習後のグループ討論を通じ、②同じ分野の実習施設であってもそれぞれその施設独自の理念や特色があり、実習施設の姿を絵の具の「色」として、③また自分が抱いている価値観や問題意識にもそれぞれ違いがあることに気づき、それもまた一つの「色」として、④さらに今後学生たちが実習での学びを基盤に成長していく「色の変化」にも例えている。

今回の実習を表面的な理解で終わらせず、対人支援職を目指し、現実に向き合う第一歩にしてほしい。

1. 本学部の実習について

本学部の実習は、社会福祉士指定科目に対応する科目が「社会福祉現場実習Ⅰ」(1単位)「社会福祉現場実習Ⅱ」(機関・3単位)、「社会福祉現場実習Ⅲ」(施設・3単位)、精神保健福祉士指定科目に対応するのが、「精神保健福祉援助実習」(7単位)である。

その内訳は、2年次に履修する「社会福祉現場実習Ⅰ」が事前学習、3年次に履修する「社会福祉現場実習Ⅱ」および「社会福祉現場実習Ⅲ」が配属実習と事後学習となる。

また精神保健福祉援助実習は、3年次に事前学習、4年次に配属実習と事後学習を実施している。さらに2006年度より「社会福祉ふれあい実習」(1回生時に履修)と「精神保健福祉ふれあい実習」(2回生時に履修)を新設し、実習科目の充実をはかった。

※本学部の実習の特徴は、①実習先の開拓・選択、②見学やボランティア体験の依頼と体験、③配属実習の依頼まで、実習先との連絡・調整を個々の学生が行っていることである。

2. 活動の評価

ほとんどの学生が8月から9月に、社会福祉現場実習および精神保健福祉援助実習の配属実習を実施した。学生にとっては、戸惑いや失敗を経験する学生もおり、配属実習のみならず事前、事後指導を丁寧に行っていかなければならない。

3. 今後の課題

社会福祉現場実習では、理想と現実の間で自問自答した学生が多くみられた。この対策として、大学での講義・演習と実習のすりあわせが必要である。現実の問題を学ぶ機会を増やすことと、担当教員としても実習先との情報交換を増やし、配属実習の目的と内容について共通理解をもつように努めたい。

総務・予算委員会

宮上 多加子

総務委員会・予算委員会として行った業務は、下記のとおりである。

1. 教授会の資料準備及び運営

定例教授会に提出する議題及び総務に関わる事項を集約・調整し、教授会の議事メモを作成した。

2. 高校生見学に対応

高知県内高校からの見学者に対応するため、池事務室及び看護学部担当者との調整をしながら、学部紹介及び案内をおこなった。

3. 学部日常事務の対応

助手および臨時事務職員の協力を得て、寄贈資料、手紙の登録、整理、回覧などの仕事に対応した。

4. 平成18年度学部報の編集、発行

学部報の内容は、年度概況、教員の教育教究活動、学部内委員会活動、地域貢献活動、学生を中心とした活動報告および資料から構成されている。巻末には卒業論文題目を掲載した。印刷部数は700部である。

5. 学部PR誌の発行

学部PR誌（「こんにちは、社会福祉学部です」）を一部改訂し発行した。改訂内容は、新しく赴任した4人の教員の紹介欄の追加と、入試および在学生の状況に関する最新データへの更新である。また、表紙および紙質を少し変更した。印刷部数は1200部である。

6. 学部内使用教室および備品の整備

学部棟304社会調査実習室の整備を行った。室内備品の整理を行うとともに、新たにパソコン2台を購入して、統計ソフトをインストールし、学部生および大学院生の研究環境を整えた。また、417共同研究室内に保管してあるビデオ・カメラ類の整備を行った。

7. 研究雑誌および書籍の購入

学部生および大学院生が使用する研究資料を充実させるため、社会福祉分野の基礎的文献や辞書・事典類をリストアップして約70冊を購入した。また、使用頻度が高い研究雑誌のバックナンバーを購入した。

予算委員会は、学部の学生教育費（実験実習費）や教員研究費に関する予算編成が主たる業務であった。教員研究費の減額及び使途の制限が予想される中で、効果的な予算編成が必要であろう。

総務委員会の継続的な課題としては、社会福祉学部共用の備品の整備および管理体制の検討があり、また、大学改革に関連する施設や備品については、改革後の学部運営を念頭においた検討が必要である。